

平成30年度

「運営に関する計画」
最終評価

大阪市立豊新小学校

平成31年3月

大阪市立豊新小学校 平成30年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校教育目標

◇豊かな心を持ち、めあてをもって、意欲的に学ぶ子どもを育てる

- ・たくましい身体になる子ども
- ・ゆたかな心をもつ子ども
- ・よく考える子ども

2 学校運営の中期目標

現状と課題

児童は素直で明るく、元気よくあいさつのできる児童が多い。また、ここ数年、重篤な問題行動もなく、安定した学校生活が送れている。学習規律も多くの児童が守れており、学習にも真面目に取り組み、特に、体験的な学習活動を好んでいる。さらに、学校行事、委員会活動やクラブ活動にも積極的に取り組んでいる。たて割り班活動では、高学年児童は低学年児童を優しい心を持って接し、低学年児童は高学年児童に対して尊敬の念を持って親しんでいる。地域や保護者も学校の教育活動に好意的で、多大なる支援・協力を得ることができている。

しかしながら、年々、学力および体力の向上は見られるが、全国学力・学習状況調査や大阪市学力経年調査の結果においては、平均正答率をわずかながら下回っている。また、全国体力・運動能力、運動習慣等調査においても、男女とも握力を除いては全国平均を下回っている。

そこで、この3年間の「言語活動の充実」を目指した研究をベースとし、基礎的・基本的な知識や技能の定着を目指し、日々の反復学習や体験的な学習、ICTを効果的に活用した協働的な学習を多く取り入れるなど、教科指導法のさらなる工夫、また、平成32年度の新学習指導要領の完全実施を見据え、「主体的・対話的で深い学び」について研究を深め、教育実践を進めていく必要がある。さらに、外国語活動については、本市に先駆けて中学年で実施してきた強みを生かし、学習内容の深化充実ならびにモジュール学習の確実な定着、低学年への広がりを目指していきたい。

体力の向上に関しては、豊富な運動量を確保した体育科授業の推進、運動を楽しく取り組むきっかけ作りとなる、なわとび週間やかけ足週間、スポーツ集会などの学校全体としての取組、みんな遊びなどの学級での取組など、児童が生涯にわたって進んで運動をする意識の向上を図っていきたい。

また、自己肯定感や自尊感情を高めるとともに、他者を思いやる優しい心を育める取組の充実が必要である。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- 平成 32 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年 95%以上にする。
- 平成 32 年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を、毎年、90%以上にする。
- 平成 32 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を、毎年、前年度より減少させる。
- 平成 32 年度末の校内調査において、不登校になる児童の割合を、毎年、前年度より減少させる。

学校の目標

- 自他ともに認め合い、思いやりのある子どもを育成するとともに、心豊かな子どもの育成のため、芸術鑑賞行事（演劇・音楽鑑賞・古典伝統芸能）を年に 1 回、計画的に実施する。さらに多様な体験活動（社会見学）を 3～6 年生で実施する。
- 平成 32 年度の校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 90%以上にする。
- 平成 32 年度の校内調査における「自分には良いところがある」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 90%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- 平成 32 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、平成 28 年度より向上させる。
- 平成 32 年度の小学校学力経年調査における正答率 5 割以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 28 年度より 5 ポイント減少させる。
- 平成 32 年度の小学校学力経年調査における正答率 8 割以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 28 年度より 5 ポイント増加させる。
- 平成 32 年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、平成 28 年度より 9 ポイント増加させる。
- 平成 32 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横跳び、20m シャトルラン、立ち幅跳びの平均の記録を、平成 28 年度よりそれぞれ 10 ポイント、10 ポイント、12 ポイント向上させる。

学校の目標

- グローバル化の進む国際社会において生き抜く力を備えた児童を育むため、ICTを活用した教育の推進、外国語活動の深化充実を図り、平成 32 年度の校内調査における「ICTを活用した学習はわかりやすい」、「外国語活動は楽しい」の項目において、肯定的に答える児童の割合をともに 90%以上にする。
- 授業力の向上を目指し、授業研究を伴う校内研修の充実を図り、平成 32 年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合を、毎年、90%以上にする。
- 平成 32 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計得点を、平成 28 年度より 5 ポイント向上させる。

3 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- 平成 30 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- 平成 30 年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 90%以上にする。
- 平成 30 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 平成 30 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校の年度目標

- 心豊かな子どもの育成のため、芸術鑑賞行事（音楽鑑賞）ならびに多様な体験活動（社会見学）を実施する。
- 平成 30 年度の校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 86%以上にする。
- 平成 30 年度の校内調査における「自分には良いところがある」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 85%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- 平成 30 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- 平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。
- 平成 30 年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横跳び、20m シャトルラン、立ち幅跳びの平均の記録を、前年度よりそれぞれ 2 ポイント（回）、2 ポイント（回）、2 ポイント（cm）向上させる。

学校の年度目標

- 平成 30 年度の校内調査における「ICTを活用した学習はわかりやすい」、「外国語活動は楽しい」の項目において、肯定的に答える児童の割合を、ともに 85%以上にする。
- 平成 30 年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 90%以上（平成 28 年度 89%）にする。
- 平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計得点を、前年度より 2 ポイント向上（男子 48.14 ポイント、女子 48.71 ポイント）させる。

4 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

□施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現

- ・学期に一度いじめアンケートを実施し、一人ひとりから聞き取りをしてきた結果、認知した件については、すべて解消されている。
- ・不登校児童への対応については、学校だけでは限界がある。諸機関とさらに強く連携し、様々な立場から働きかけをしていく。

□施策2 道徳心・社会性の育成

- ・情報モラル教育については今後、企業等の教育事業を活用し、自分や他者の価値を尊重する心を育成する。芸術鑑賞行事や多様な体験活動等、満足感や達成感を味わえる取組を継続する。
- ・道徳が教科化された。自己肯定感をさらに高められるよう、様々な教材・観点から指導していく必要がある。

□施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援

- ・東淀川図書館からの貸出、図書ボランティアによる朝の読み聞かせや休み時間の図書館開放、図書委員による図書館開放など、様々な形で児童が本に親しむ機会を設ける。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

□施策5 子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組

- ・小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団では前年度より向上させることができた。
- ・子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組として、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着とともに、活用力の向上を目指し、個別指導やグループ指導、反復学習、習熟度別少人数学習などを引き続き工夫しながら行う。

□施策6 国際社会において生き抜く力の育成

- ・児童は、タブレットなどの ICT 機器を活用することで、色々な視点で考え興味を持って学習に取り組んだ。また、様々な学年でプログラミング学習にも取り組むことができた。「ICTを活用した学習はわかりやすい」の項目において目標を大きく上回った。
- ・低学年からネイティブの指導者から英語の授業を受けることによって、目標を上回り英語教育の指導法を共有できた。

□施策7 健康や体力を保持増進力の育成

- ・体育の学習などで児童の敏捷性を向上させる指導に取り組んできた。結果、秋の体力テストでは、女子の立ち幅跳びは総合ポイントで下回ったものの、20m シャトルラン、反復横跳びは、目標数値を男女ともに上回り、全体として敏捷性や跳躍力の向上が認められた。

(様式2)

大阪市立豊新小学校 平成30年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】 全市共通目標 ○平成30年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 ○平成30年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上(H28:87% H29:93%)にする。 ○平成30年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 ○平成30年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 いじめのアンケート調査を定期的に（学期に1度）実施し、当該児童からの聞き取りをていねいに行い、校内いじめ対策委員会において事案を解消していく。		B
指標 平成30年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。		
取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 社会や集団生活でのルールを守ることを日常的に全教職員で指導する。		B
指標 平成30年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上（H28:87% H29:93%）にする。 平成30年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。		
取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 区役所（子育て支援室）やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を図るとともに、校内ケース会議で情報共有し、個別支援を行う。		B
指標 平成30年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
① いじめアンケートの調査を毎学期行い、丁寧に聞き取りを行い、一つ一つの事例に対して対処してきた。校内調査において認知したいじめについて、100%解消した。2月のアンケートについては、解消した割合がでた後に評価する。		
② 社会や集団でのルールを守らせることの大切さを日常的に指導してきた。校内調査における「学校のきまりを守っていますか」では、90%であった。平成30年度末の校内調査における、暴力行為を複数回行う加害児童数は出た後に評価するが、安全で安心できる教育環境が整ってきた。		
③ 区役所等の関連機関と連携し、個別支援を行うことができた。校内ケース会議に挙げる案件は現時点ではなかった。		

次年度への改善点
<p>① 次年度も継続して、いじめのアンケート調査を定期的に（学期に1度）実施し、当該児童からの聞き取りをていねいに行い、校内いじめ対策委員会において事案を解消していく。</p> <p>② 次年度も継続して、社会や集団生活でのルールを守ることを日常的に全教職員で指導する。</p> <p>③ 次年度も継続して、区役所（子育て支援室）やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を図るとともに、校内ケース会議で情報共有し、個別支援を行う。</p>

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○心豊かな子どもの育成のため、芸術鑑賞行事（演劇鑑賞）ならびに多様な体験活動（社会見学）を実施する。</p> <p>○平成 30 年度の校内調査における「自分には良いところがある」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 85%以上（H28:83% H29:83%）にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>芸術鑑賞行事ならびに多様な体験活動（社会見学）を実施し、心豊かな子どもの育成を図る。</p> <hr/> <p>指標 年間行事計画に基づき、音楽鑑賞行事、3～6年生で社会見学を実施する。</p> <p>平成 30 年度の校内調査における「自分には良いところがある」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 85%以上（H28:83% H29:83%）にする。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 年間行事計画に基づき、芸術鑑賞会を 10 月 22 日に、3～6年生の社会見学をそれぞれ実施し、心豊かな子どもの育成を図ることができた。平成 30 年度の校内調査における「自分には良いところがある」の項目において、肯定的に答える児童の割合は 85%で、目標（85%）に達した。道徳や学級での取り組みも良い結果につながっているのではないかと考える。</p>	
次年度への改善点	
<p>① 自己肯定感を育てるためには、次年度も普段から「ほめる」「認める」指導を継続していく。また、芸術鑑賞行事や多様な体験活動等、満足感や達成感を味わえる取り組みを継続する。</p>	

年度目標	達成 状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 学校の年度目標 ○平成 30 年度の校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 86%以上（H28:84% H29:86%）にする。	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進 捗 状況
取組内容①【施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 学級文庫の充実ならびに図書室活動の活性化図り、児童がより読書に親しめる機会を増やす。 指標 平成 30 年度の校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 86%以上（H28:84% H29:86%）にする。	C
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 今年度は、読書週間、読書ビンゴ等の新たな取り組みを増やしたり、これまで以上に図書委員会、読書ボランティアの活動を活発に行い、本に親しめる機会を増やしたりした。しかし、平成 30 年度の校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、肯定的に答える児童の割合は 83%で、目標（86%）を下回った。	
次年度への改善点	
① 今年度の取り組みを定着させるために、次年度も継続して図書室活動や学級文庫等の活性化を図り、児童がより読書に親しめる機会を増やす。	

年度目標	達成 状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○平成 30 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>○平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。</p> <p>○平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。</p> <p>○平成 30 年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目において、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加（H28:76% ）させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○平成 30 年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 90%以上（H28:89% H29:91%）にする。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進 捗 状況
<p>取組内容①【施策 5 子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>基礎的・基本的な学習内容の確実な定着とともに、活用力の向上を目指し、個別指導やグループ指導、反復学習、習熟度別少人数学習、放課後学習や家庭学習支援などを行う。</p> <hr/> <p>指標 平成 30 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。</p> <p>平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。</p>	C
<p>取組内容②【施策 5 子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>単元や題材に即して、ペア学習・グループ学習を取り入れた授業デザインを構築し、多くの場面で話し合いの場ができるように工夫する。</p> <hr/> <p>指標 平成 30 年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目において、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加（H28:76% ）させる。</p>	C
<p>取組内容③【施策 5 子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>実施計画に基づいて、計画的に研究授業および研修会を実施する。</p> <hr/> <p>指標 平成 30 年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 90%以上（H28:89% H29:91%）にする。</p> <p>全教員が一人 1 回以上の研究授業を行うとともに、学習指導に関する全体研修会を 8 回以上行う。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① 平成 30 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較すると、6 年生（82.1→89.1）、5 年生（88.2→89.1）、4 年生（94.2→95.8）と、いずれの学年も前年度より向上した。また、小学校学力経</p>	

年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童を同一の母集団で前年度と比較すると、6年（17.9→18.8）、5年（25.0→29.3）、4年（12.8→16.9）で、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させることはできなかった。一方、小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上回る児童の割合を同一の母集団で比較すると、6年（7.5→10.1）、5年（9.2→13.3）、4年（10.3→13.3）で、いずれの学年も前年度より1ポイント以上増加させることができた。この結果から児童の正答率は大阪市に近づいているが、学力の2極化がみられる。

② 平成30年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目において、肯定的に回答する児童の割合は72.7%で前年度の75.9%を下回った。発達段階に応じた授業方法を工夫しながら、児童一人一人が自分の意見を表現できる場の設定を工夫していく。

③ 平成30年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合は94%で目標（90%）を上回ることができた。

次年度への改善点

①子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組として、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着とともに、活用力の向上を目指し、個別指導やグループ指導、反復学習、習熟度別少人数学習、放課後学習や家庭学習支援などを引き続き行う。

②単元や題材に即して、ペア学習・グループ学習を取り入れた授業デザインを構築し、多くの場面で話し合いの場ができるように引き続き工夫する。

③計画的に研究授業および研修会を引き続き実施する。

年度目標	達成 状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○平成 30 年度の校内調査における「ＩＣＴを活用した学習はわかりやすい」(H29:95%)、「外国語活動は楽しい」(H29:87%) の項目において、肯定的に答える児童の割合をともに 85%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進 捗 状況
<p>取組内容①【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>ＩＣＴの効果的な活用方法について指導方法（プログラミング学習等）の研究を行い、授業実践を蓄積させていく。</p> <p>指標 平成 30 年度の校内調査における「ＩＣＴを活用した学習はわかりやすい」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 85%以上（H29:95%）にする。</p>	B
<p>取組内容②【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>外国語活動・英語教育の深化充実、モジュール学習の定着を図るため、教員研修を充実させる。</p> <p>指標 平成 30 年度の校内調査における「外国語活動は楽しい」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 85%以上（H29:87%）にする。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① プログラミング学習について、校内の研修が深まり、全市への公開授業も盛況であった。デジタル教科をはじめＩＣＴを活用した授業も定着し、児童の理解も深まっている。平成 30 年度の校内調査における「ＩＣＴを活用した学習はわかりやすい」の項目において、肯定的に答える児童の割合は 95%で、目標（85%）を大きく上回った。ＩＣＴの効果的な活用方法について指導方法の研究を行い、授業実践を蓄積させることができた。</p> <p>② 担任、C-NET（2 名）やイーオン、英語担当の教員が外国語活動の授業に当たり、児童は英語に触れる機会がたくさんあった。また、モジュール学習も計画的に実施してきたので、平成 30 年度の校内調査における「外国語活動は楽しい」の項目において、肯定的に答える児童の割合は 94%で、目標（85%）を大きく上回った。校内外の教員研修を実施するなどして、外国語活動・英語教育の指導法を共有することができた。</p>	
次年度への改善点	
<p>① ＩＣＴの効果的な活用方法について繰り返し指導方法の研究を行い、授業実践を蓄積させていく。</p> <p>② 平成 32 年度の新学習指導要領実施に向けて、授業実践を積み重ねる。</p>	

年度目標	達成 状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横跳び、20m シャトルラン、立ち幅跳びの平均の記録を、前年度よりそれぞれ 2 ポイント（回）、2 ポイント（回）、2 ポイント（cm）向上させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計得点を、前年度より 2 ポイント向上（H28:男子 48.14 ポイント、女子 48.71 ポイント H29:男子 49.42 ポイント、女子 52.34 ポイント）させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進 捗 状況
<p>取組内容①【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>体育の授業において、敏捷性や跳躍力のアップを目指す取組をする。</p> <hr/> <p>指標 平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横跳び、20m シャトルラン、立ち幅跳びの平均の記録を、前年度よりそれぞれ 2 ポイント（回）、2 ポイント（回）、2 ポイント（cm）向上させる。</p>	B
<p>取組内容②【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>運動やスポーツに興味・関心が高まり、楽しみながら体を動かすことのできる取組を年間を通して工夫する。</p> <hr/> <p>指標 平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計得点を、前年度より 2 ポイント向上（H28:男子 48.14 ポイント、女子 48.71 ポイント H29:男子 49.42 ポイント、女子 52.34 ポイント）させる。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 日々の体育科の学習において、健康や体力増進に努めた。指導の中でラダーやミニハードルを使用したり、音楽に乗って体を動かしたりと児童が楽しみながら体を動かす活動を取り入れた。結果、秋の体力テストでは、女子の立ち幅跳びは総合ポイントで下回ったものの、20m シャトルラン、反復横跳びは、目標数値を男女ともに上回り、全体として敏捷性や跳躍力の向上が認められる。</p> <p>② 全校でのかけ足週間やなわとび週間など、体育の学習以外でも児童の体力向上に向け計画的に行うことができた。結果、目標数値を達成することができ（男子 51.4 ポイント 女子 51.1 ポイント）、確実に一人一人の運動に対する興味・関心は高くなってきている。</p>	
次年度への改善点	
<p>① 児童の体力向上を目指し、今後も体育の学習を中心に敏捷性と跳躍力を伸ばせる指導法の工夫・研修会を実施していく必要がある。また、年度当初に各学年の年間指導計画を提示し、指導に当たる。</p> <p>② 今後も、スポーツテスト・なわとび週間・スポーツ集会・かけ足週間などの体育的行事や取組を継続していくとともに、運動やスポーツに興味・関心が持てるよう、体育科の授業を中心に指導していく。また、児童が運動場で安全に運動できる環境を整備していく。</p>	